



4月1日付け人事

主な人事異動と新規採用職員をお知らせします

部長職	▽総務部長 吉田尚治▽市民部長 渡辺庄二▽産業部長 鎌田洋一▽建設部長兼上下水道局長 筋内正和 ▽教育部長 橋本弘明▽会計管理者兼会計課長 赤石沢達雄▽議会事務局長 渡辺悟
課長職	▽総務部財政課長 志田健久▽大越行政局長併任教育部参事(大越公民館運営担当) 根本修一▽常葉行政局長兼文化の館館長兼市民係長併任教育部参事兼常葉公民館長 白岩孝志▽市民部市民課長 柏原秀子 ▽市民部環境課長 遠藤祥一▽保健福祉部子ども未来課長兼子育て応援係長 伊藤文恵▽建設部建設課長 坪井博人▽建設部都市計画課長 永山淳一▽教育部教育総務課長 三浦幹▽教育部生涯学習課長 菅野勝栄 ▽教育部船引公民館長兼文化センター館長 松崎博志▽議会事務局次長兼監査委員事務局長 松本紀恵 ▽農業委員会事務局長 三浦栄喜
課長相当職	▽教育部学校教育課管理主事兼課長補佐兼指導管理係長 佐久間誠
課長補佐職	▽総務部財政課課長補佐兼財政係長 大山義友▽滝根行政局局長補佐兼産業建設係長併任教育部滝根公民館長 山内秀享▽大越行政局局長補佐兼市民係長併任教育部大越公民館長 浅理友一▽都路行政局局長補佐兼産業建設係長併任教育部都路公民館長 渡辺伸吾▽市民部市民課課長補佐兼国保年金係長 吉田浩一▽市民部生活安全課課長補佐兼危機管理係長 鴻野真実▽市民部環境課課長補佐兼廃棄物対策係長 石井直樹▽保健福祉部子ども未来課課長補佐兼子育て支援センター所長兼船引児童館長 鈴木礼子▽保健福祉部子ども未来課課長補佐兼子ども育成係長 坪井健広▽保健福祉部都路子ども園長 村上光▽保健福祉部大越子ども園長 鈴木智子▽保健福祉部滝根幼稚園長兼三代ふれあい交流館長 三瓶貴子▽保健福祉部保健課課長補佐兼健康増進係長兼統括保健技師 鈴木節子▽産業部農林課課長補佐兼農政係長 桑原春光▽産業部観光交流課課長補佐兼観光係長 石井信弘▽建設部都市計画課課長補佐兼都市整備係長 坪井啓徳▽教育部教育総務課課長補佐兼教育総務係長 助川勇造▽教育部船引公民館副館長 松崎久幸▽教育部学校給食センター所長 佐藤勇一▽上下水道局上下水道課課長補佐兼施設係長 根本一広
課長補佐相当職	▽総務部総務課主任主査兼秘書広報広聴係長 柳沼みゆき▽総務部総務課主任主査 石井孝道▽大越行政局主任主査兼産業建設係長 橋本喜治▽市民部税務課主任主査 湯佐泰▽保健福祉部子ども未来課主任主査 坪倉昭恵▽保健福祉部都路診療所専門看護技師兼看護師長 佐藤和江▽会計課主任主査兼会計係長 佐藤洋子▽選挙管理委員会事務局主任主査兼選挙係長併任総務部総務課主任主査 菅野裕勝▽監査委員事務局主任主査兼総務係長併任議会事務局主任主査 木目沢雪江▽上下水道局上下水道課主任技査 佐藤健志
係長職	▽総務部総務課人事係長 三輪寿雄▽総務部財政課管財係長 佐藤稔▽滝根行政局市民係長 佐藤兵庫 ▽都路行政局市民係長 筋内はるみ▽常葉行政局産業建設係長 朝田容司▽市民部市民課生活改善支援係長 大槻真澄▽市民部税務課収税係長 本田充史▽市民部税務課資産税係長 郡司和弥▽市民部生活安全課生活安全係長 千葉充泰▽市民部環境課環境衛生係長 琴田香織▽保健福祉部保健課市民病院整備室市民病院整備担当係長 大河原修一▽産業部農林課農地整備係長 佐久間貴幸▽産業部商工課商工振興係長 松崎勝江 ▽建設部都市計画課建築住宅係長 今泉敦司▽教育部教育総務課教育施設係長 大山茂男
新規採用職員	▽総務部DX推進室 半澤悟▽産業部農林課 柳沼陽司▽上下水道局上下水道課 齊藤広太▽市民部環境課 吉田朱里▽保健福祉部高齢福祉課 柳田羽美▽市民部生活安全課 山田健人▽総務部財政課 佐藤愛梨紗 ▽教育部学校教育課 舞木愛▽市民部税務課 渡辺光▽建設部都市計画課 松本ひかり▽教育部生涯学習課 郡司環▽市民部市民課 高彩世▽保健福祉部保健課 菅野真希▽保健福祉部滝根幼稚園 本田梨乃 ▽保健福祉部常葉保育所 石田玲

田村市の文化財リターンズ

関教育部生涯学習課 ☎81・12115

『竹久夢二』

市政日より2023年12月号・文化財連載「田村市初の衆議院議員 菅村太事」の中で紹介した竹久夢二(以下、夢二。1884〜1934)について、掘り下げてご紹介いたします。

大正ロマンを代表する画家、夢二は「夢二式美人画」と呼ばれる数多くの美人画を残しており、児童雑誌や詩文の挿絵も描いているほか、文筆の分野でも詩、歌謡、童話などを創作しています。また、多くの書籍の装幀、広告宣伝物、日用雑貨、浴衣などのデザインも手掛けており、近代日本グラフィック・デザインの草分けの一人とも言えます。そのため、東京都文京区をはじめ岡山市や瀬戸内市、酒田市、金沢市、伊香保温泉など関連する多くの市町村

に美術館や記念館があります。夢二は明治17(1884)年、岡山県村久郡本庄村(現・岡山県瀬戸内市)に酒造業を営む家に生まれました。明治35(1902)年に早稲田実業学校へ入学。この頃、片曾根村(現・船引町船引)の村長となり、田村市二人目の衆議院議員となる助川啓四郎(以下、助川。1887〜1943)と出会います。

人間性の通う深い絆で結ばれた2人は、固く手を握り合いながら、助川は政治家を、夢二は画家を志してそれぞれの道を歩み始めます。その後、夢二は大正10(1921)年と昭和5年の2回、助川を訪ね、船引町「御代田旅館」で画会を開催しています。2人の出会



1 晩年の竹久夢二



2 青衣女人図



3



4



5

3 岸たまき

4 笹井彦乃

5 お葉

いの心を大切に、文化の窓を広げたという目的で、昭和55(1980)年に市図書館の2階に「夢二ルーム」を設け、御代田旅館での画会の際に描かれた自画像をはじめとする書画や書籍などとあわせて助川の関連資料なども展示しています。

画家である一方、恋多き夢二の生涯には数々の女性が登場します。岸たまき(以下、たまき。1882〜1945)は、戸籍上唯一妻となった女性です。早稲田鶴巻町に開店した絵葉書店に、夢二が客として毎日店に通いつめ、結婚にいたりしました。最後は、たまきと画学生の仲を疑った結果、刃傷沙汰から絶縁となります。

たまきと別れ京都に移り住んだ夢二

と交際したのは、笹井彦乃(1896〜1920)でした。九州旅行中の夢二を追う途中、別府温泉で結核を発症。そのまま短い人生を終えます。夢二は彼女を最も愛していたようであり、その死後しばらくショックから立ち直れなかったそうです。

その後交際をしたお葉(1904〜1980)は、東京美術学校のモデルとして人気がありました。夢二との間に一児をもうけますが夭折。翌年お葉は自殺を図り、半年後に別離しました。

その後も夢二は創作活動を続けますが、昭和8(1933)年に結核を患い、翌年9月1日、「ありがとう」の言葉で最後に49歳でその生涯を終えます。

これまでの記事は市ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください!

